

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

横河電機株式会社（証券コード:6841）

【据置】

長期発行体格付	A+
格付の見通し	安定的

■格付事由

- (1) 生産制御機器・システムの大手。プラントの制御・運転監視を行う分散形制御システムでは、プラントの高稼働率を実現する製品の信頼性やプロジェクト遂行能力の高さを強みとしている。プロセスオートメーション（PA）市場では有力なグローバルサプライヤーの1社に位置し、特にアジア・中東市場で高いシェアを有する。近年はソリューションビジネスの拡充に取り組んでおり、16年4月には石油・ガス産業向けコンサルティング業務に強みを持つKBC Advanced Technologies Limited（KBC社）を買収した。
- (2) 原油安の影響で石油・ガスプラントなど上流分野の設備投資は依然として鈍い。しかし、厳しい事業環境が続く中でも当社の業績は底堅く推移している。国内外のPA市場における強固な事業基盤に変化はなく、システム更新や保守メンテナンスの需要を取り込めていることが背景にある。足元では新興国を中心に需要が回復しつつあり、当面の営業利益は底堅く推移するとみられる。今後も積極的な投資が続く可能性はあるが、良好な財務構成は維持可能とみられ、格付を据え置き、見通しを安定的とした。
- (3) 18/3期営業利益は会社計画で330億円（前期比4.5%増）と公表されている。19/3期の営業利益も、足元の堅調な受注動向を踏まえれば大きく落ち込む懸念は小さい。かねてより取り組んでいるコスト削減もエンジニアリング効率化、購買面、物流面で一定の成果を得られており、営業利益を下支えしている。一方で、ソリューションビジネスは、18/3期にKBC社ののれん等減損損失を計上するなど課題が残った。当社は提案力の強化により、新業種開拓やサービスの付加価値向上を目指している。KBC社とのシナジー創出を含めて、ソリューションビジネスの利益への貢献度を高めていくことができるか注目している。
- (4) 好調な業績を背景に利益蓄積が進み、財務諸指標は改善傾向にある。17年12月末の自己資本比率は60.5%と良好な水準にあり、15/3期末以降は実質無借金経営となっている。今後も制御事業を中心に積極的な投資が予想されるが、キャッシュフロー創出力や手元流動性の厚みを踏まえれば財務構成へ与える影響は限定的とみられる。

（担当）関口 博昭・山口 孝彦

■格付対象

発行体：横河電機株式会社

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A+	安定的

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2018年4月11日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：湊岡 由典
主任格付アナリスト：関口 博昭
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「電機」(2011年7月13日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 横河電機株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル